聖ヨゼフ学園 京都暁星高等学校



■機能性・社会性・経済性について

- 冷房は3室のみに、設備機器に頼らない建物。
 設備機器の省エネルギー能力を選ぶのではなく、設備機器を無くすことから始めた。
 冷房はほとんど無く3室のみ。自然採光の活用で照明器具を削減。
- 自然エネルギーを生かし、感じることのできる木造校舎。 自然通風の確保。日射・雨・雪を受け止める深い軒。 そのパッシブソーラ・、高断熱、高気密により、旧校舎からの再利用ストーブの灯油 使用量が約半分に低減。
- 小さく建てて大きく使う。必要以上を造らない。
 1つのスペースを多目的に利用。準衡を少しでも小さく造ることから始めた。
 連動の分棟により、様々な場面展開を生む空間を作りながら、法的義務の防災設備が少ない安全な建物。
- 火力発電所を学校へ、もとの自然の姿に。 周辺集落の原風景との関和。緑豊かな山並みの景観を再生。既存樹木を保全。 日本初の火力発電所解体工事。最終混合廃棄物をわずか259①に。 地面を土に、雨水を大地に。透水性、保水性の高い地表仕上とし、地球環境への負
- 古いものを捨てない、工事のゴミ・敷地の土を出さない。 既存校舎の家具の再利用。家具に合わせて建物を設計。 解体発電所コンクリートガラをグラウンド透水砕石として再利用。
- 一番大切なことは、環境を守る人を育てること。 窓の関閉、照明、空間のこまやかな入り切り中を生徒が日々行う。 旧校舎時代より、一日も欠かさず全校生徒・数員が清掃が継続されている。 環境への取り組みが、数育の中で常に励行され、慈しみの精神が受け継がれている。

	Cur in Acid	口特に 重視し たデインの 視点	口評価項目に対する設計者のデザイン意図 (従前のデザインに放し、優れている部分、卓越している部分に関して 異体的に記述してびだい。)	□評価				評価	换算		an in
				普通	優れ てい る +1	卓越 して いる +2	小計	項目数	係 数 (*1)	配点	評価点
A.感性軸 sensitivity	01審美感	0	内外装に多く用いた木と素朴な切妻屋根による造形、それを取り囲む線が、人の心に	Г	П	0	2	Г		2.0	80
			働かしい美しさを感じさせる。 思辺の集落の原風書をよりどころした建物が、接着かな書観と楽しく顕和している。	H	H	-	₩	5			
	02調和性	0	同型の美速の原体展をようとこうした機能が、終型から景報に美しく調和している。	1		0	2			2.0	
	03独創性		広大な芝生の中原を、分棟化された木造平屋校舎が取り囲む配置構成は、高等学校として	Г		0	2		1.0	20	
	いる供制性	0	他に例を見ないものである。	L	L.	0	12	9	1.0	2.0	
	04象徴性		素朴な切妻屋根の木造校舎が中庭を囲み、連なる様相のなかに、シンブルで端正な表現が		0		1			1.0	
			割りだす象徴性を見出すことができる。 衣養的な表現を明え、洗練された細部のデザインにより、完成度の高い確物となっている。	⊢	Ė	-	<u> </u>				
	05完成度		おおりな女気と何人、北京では二年回の) ライフトよう、元年度の前・連州となったい。	1	0		1			1.0	
B.梅能勤	06機能性		裏等学校として必要とされる回復や空気団境など、必要性能を確保している。	0			'n			00	7.0
	07效率性			Ÿ	_	-	ľ			0.0	
		0	エネルギーの効率化検討以前に、空間機・照明器具など設備機器を可能な限り、 少なくすることで、イニシャル・ランニング両面のエネルギーの使用を減らすことをめざした。	_		0	2			2.0	
taabuisala	08利便性	-	型はくすることで、イージャル、フジーング 同国のエイルギーの使用を扱っすことをおさした。 照明器具、空間機等は各室の個別スイッチとし、窓、カーテンの関閉という極めて単純な		-						
merit			動作によって、各章ごとの環境制御が確でも、タイムリーに行える。	1	0		1	5	1.0	1.0	
	09安全性	0	全ての校舎が平屋であり、どの部屋も外部と同レベルで接しており、防災性能が高い。		0	_	2			20	
			木の架構、内外の仕上げと少ない設備機器により、安全性の高い学校空間を実現している。	H		0				2.0	
	10先導性	0	最新の機能や設備を豊富に備え持つ、現在の学校建築のトレンドとは正反対のシンブルで			n				20	
	,	Ļ	質素な校舎は、今後の学校建築の真の豊かさへの問いかけとしての意味をもつ。	-	Н	ř	-		₩		\vdash
	11環境負荷 12資源消費 13地域環境性	0	建物規模をできる限り小さくし、空間機・照明器具など設備機器も可能な限り減らすことで イニシャル、ランニング両面の音頭・エネルギーの使用を減らすことを機能した。	1		0	2			2.0	10.0
C.社会軸 social- merit			1 ーンマル、フノーノリ 両面の見跡・エイルヤーの使用を減らすことを他思した。 日本初の火力発電所解体での薬料は、再音源化を機度し、砕石などとして酸地内で		-	-		5			
		0	有効利用した。内外第に地元の杉間性小幅板を多用している。			0	2		1.0	2.0	
		0	周辺集落の原風景に調和した、木造平屋の建物と、それを取り囲む樹木が環境への負荷		Г	0	1 2			20	
		0	を抑制し、景観の復元にも結びついている。	L.	L.	0	<u></u>			2.0	
	14ユニハーサル件	0	平屋で、シンブルな設備機器のみによる建物が、ハイレベルなパリアフリーを実現している。	ı		0	1 2			2.0	
				⊢	H	ř	ب				
	15先進性	0	機能、設備が即物的に満たされることを望む価値観へのアンチテーゼとして、無いことの 参かさを、見出すことができる健物であることを目指している。	ł		0	2			2.0	
		_	一般的な木造校会の半額以下の、非常に少ないコストの中で、学校としての機能・設備性能	Н	Н	-	i .			\vdash	7.0
	16イニシャルコスト	0	を満たし、自然との共生を体表できる教育環境を実現している。	1		0	2			2.0	
	17ランニングコスト		設備機器の数量削減のみならず、既存校舎からの設備機器の再利用や自然適風・捉光、	_	0	-	! 1			1.0	
D.経済軸	11/7-2/ 485		断熱性能の向上など、少ないイニシャルで高レベルのランニングコスト低減を実現している。	L	<u></u>	_	Ļ			1.0	
cost-	18維持管理		平屋の木造校舎において、シンブルな設備仕様、メンテナンスの容易な材料、シンブルな	1	0		1	5	1.0	1.0	
merit			ディーテールを用いており、維持管理は容易である。 学校用途としての耐久性の他に、海辺の塩害、寒冷地の速害、雪害への対策を十分に配慮した。	-	Ë	-	-	1	"	-	
	19耐久性		学校用達さしての耐久性の他に、海辺の場合、差示地の連合、当合への対象を十分に配達した。 接番・設備の仕機となっている。	1	0		1	l		1.0	
			世来・政策が11年となっている。 設備機器をできる限り減らし、維物をできる限り無駄なく小さくつくり、自然のエネルギーを	—	—	_	-	1		h	
	20LCC	0	最大限に活用することで、従来の学校建築より大幅に、LOOD低減を図ることができた。	1		0	2			2.0	1
合計							32			32.0	32.0

-ジ、②武道場、





■作品の概要 環境・設備デザインの解説

「人と人,人と自然の共生の場」の創造

日本三景の天橋立を望む宮津湾に面した新校地への全面移転計

画です。 カドリック・ミッションの小規模女子高校として95年の歴史と伝統を築 いてきましたが、新校舎を建設し、あわせて男女共学校への転換を 図りました。

環境と生徒との関わりを重視する教育理念にもとづき、神によって 創られたすべての命の営みが感じられる「人と人,人と自然の共生の 場」となることを、先生方、施工者、設計者が三位一体となって目指し ました。

「設備機器をなくすことから始めた」

口真の心の豊かさを求めた素朴な空間

先達の技術や設備に満たされた学校建築トレンドに対し、この校舎 は、必要最小限の設備と、素朴なデザインにより「人と人、人と自然 が静かに向き合う場」となっています。 設備機器のエネルギー効率を選択するのではなく、設価機器自体 をなくすことから始めました。

口木造・平屋・2つの中庭・回廊

ほとんどの校舎は自然<u>業材を生かした木造</u>で、命あるものが皆同じ 目義の中にあるよう<u>平屋としています。</u> 自然の探光・通風などを最大限に活用した校舎は分棟化され、2つ の中庭を囲みながら、回廊で結ばれています。

□建築概要 ^{建築地 京都}

|文本 京都府言葉市調子橋30 (関西電力官華ガスターピン発電所跡地) 34,987.0㎡ 木造平屋建 (一部) 鉄青造平屋建 4,081.56㎡ 9,082.11㎡

竹中工務店 月19日~平成15年3月19日



周辺集業の原風量との翻和 既存業木を保全



日射・雨・雪を受け止める深い軒



